

長野県埋蔵文化財ニュース

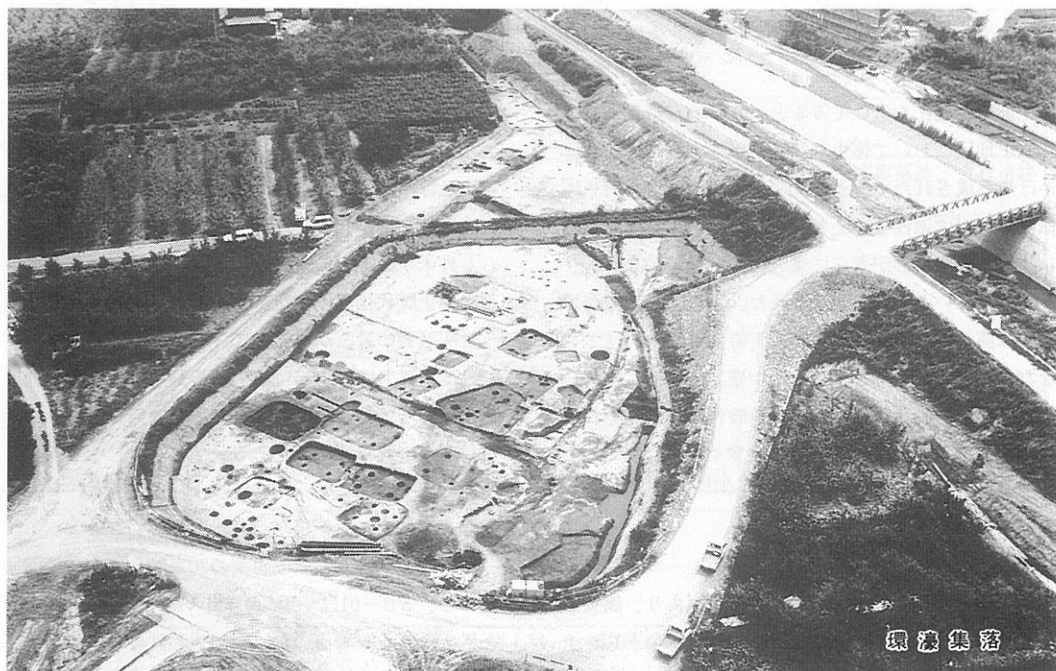
No. 29

1990.1.30

(財)長野県埋蔵文化財センター

長野調査事務所
〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926

平成元年度の発掘調査から—更埴市・長野市塩崎地区の遺跡— 長野調査事務所



長野市篠ノ井遺跡群②・③地区

篠ノ井遺跡群②・③地区は、千曲川の自然堤防上という地形の特徴をいかし、居住域として利用されてきた地点である。(A)弥生時代後期後半から古墳時代前期の集落跡、(B)7世紀後半から10世紀の集落跡、(C)中世以降の井戸跡多数(耕作が深く井戸のみが残存)が、今回の調査の主な成果である。

弥生時代後期後半からの集落は③地区で確認された幅3.6m、深さ2.2m程の環濠(写真参照)によって西側居住域と東側墓域に分離されている。居住域では、環濠からやや離れた②地区側に竪穴住居の密集地域が存在し、貯蔵穴(?)や井戸が点在している。墓域は2グループに分かれ、南側のものは長野市教委の調査した聖川堤防地点遺跡の方形周溝墓群に続くものである。今回は古墳時代前期の周溝墓のみが認められた。

主な遺物は、墓坑から獣形鏡一面と首飾り(勾玉・

管玉・ガラス玉)が伴出したほか、竪穴住居内からも小形鏡・勾玉・管玉・銅鏃が見つかった。

古墳時代中期以後空白の期間が流れたのち、7世紀後半に入ると再びこの地区に集落が形成されはじめる。掘削開始の時期は調査中であるが、西南西から東北東に延びる大溝2条(最大幅3.4m、深さ1.9m、溝間の距離80m程)とそれに直交する大溝が律令期の集落をグループ分けしている。ちなみに石川条里との規格・方向は一致していない。溝の最上層及び数軒の竪穴住居は、光ヶ丘窯式の灰釉陶器とともに洪水砂で埋没している。また新しい住居が埋没した溝上に存在していることから、洪水砂の襲来以降、集落の景観が大きく変化したことをうかがわせる。

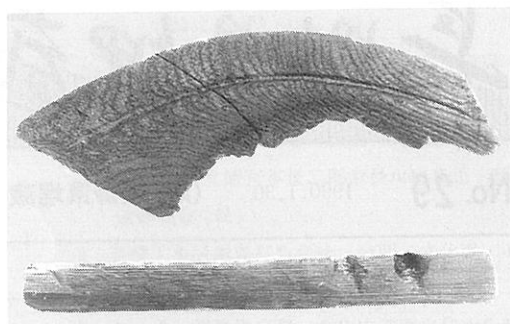
主な遺物は、私印の可能性のある「大半」の字のある銅製品、金銅製金ばりの帯金具、石製丸轡(①地区)があげられる。また朱墨された土器が多いことや、加工痕のある獣骨(馬)などが注目される。

長野市篠ノ井遺跡群①・②地区

本調査地は、昨年度調査を実施した石川条里遺跡②地区の東側に接しており、古代からの生産域（水田）と居住域の境目であった。土地利用の面からみれば、①地区の西側は低地で、石川条里遺跡に連なる生産域となり、東側の②地区の微高地上は居住域となる。検出した遺構は、縄文時代晩期から平安時代のものである。特に縄文時代晩期では溝跡・土坑跡や自然大木の幹の根元が、弥生時代後期・古墳時代前期・平安時代では竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・土坑跡等が検出されている。

地形的な変化を追ってみると、昨年の石川条里遺跡②-1地区において弥生時代後期から古墳時代前期にかけて形成されたであろう50cmほどの段差が検出され、微高地の形成過程を考えさせられたが、今年度の調査によってこの地形がさらに東方向になだらかな高まりを形成していることが確認された。また、この微高地形成以前の縄文時代晩期より弥生時代中期にかけてもなだらかな東高西低とする地形が確認できた。

当地区で注目されることは、各時代におけるそれぞれの生活空間を再現しうる資料が多く得られたことで



井戸跡出土高杯(上)と火きり臼(下)

であろう。特に古墳時代前期の井戸からはくりぬき式の井戸杵や、この井戸杵内より黒漆製品・木製高杯（杯部）が出土し、さらに井戸杵下から井戸底にかけて多数の土器やひょうたんが良好な状態で出土した。他の井戸からは火切り臼が出土し、さらに井戸の底に多数の土器が良好な状態で入っていた。また同時期の溝からも外来系の土師器を含めて多数の土器が出土している。弥生時代後期の住居跡からはガラス製小玉類や緑色凝灰岩製の管玉が出土している。

当地域における古墳時代前期の井戸や溝内の遺物は何を物語っているのでしょうか。北方向正面には姫塚古墳や川柳將軍塚古墳がある。

更埴市鳥林遺跡

善光寺平を見下す尾根上の小平坦地にあり、調査は4月10日より6月9日まで行った。全面へのトレンチ調査の結果、遺物の出土をみた地点を中心に面的調査を行い、調査面積は4,000㎡である。

検出された遺構は竪穴住居跡4（縄文早期2・平安時代2）、土坑8（縄文早期6・弥生時代末期2）と集石などがある。遺物は各時代の土器・石器があり、なかでも縄文時代早期の押型文土器とそれにともなう石



第3号住居跡(縄文早期)

器群の良好な資料を得た。

早期の遺構は南側緩傾斜面の20×30mほどの範囲に集中し、SB-01は一边約2.7mの隅円方形のプランと考えられるが斜面のため一部失われており、柱穴・炉跡はみとめられなかった。床面からまとまって押型文土器が検出されている。SB-03は2×2mの一边がやや短い台形状であり覆土中に集石状に礫を集めているが、これも柱穴・炉などはなかった。他に周辺に径70～30cmほどの土坑があり、集石状のものも多い。押型文土器は遺構にともなうもののほか、検出面において多量に見出された。他時期の遺構・遺物のみられない地点であり、同時に検出された多量の石器も同時期のものと考えられる。押型文土器はほとんどが格子目文であり、少数の山形、楕円文を含む。該期のものとしては今後県内でも標式的資料になりうる量・質を持ち注目されるものであろう。

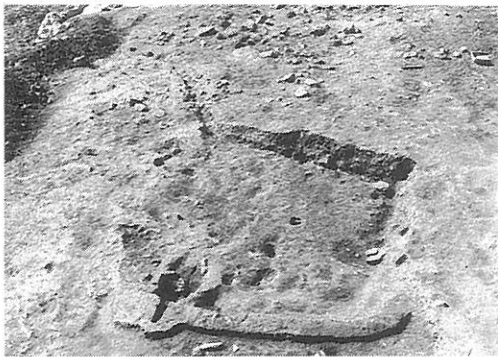
弥生末期の径70cm、深さ60cmほどの土坑は標石状の礫をもち、丹塗高杯片を出土したのみである。

平安時代の住居跡SB-05は斜面で検出されたため、床面の半分が失われていた。一边約2.5mの方形で南西隅カマドと考えられる。SB-07は用地端にあり一部を検出したのみである。

更埴市小坂西遺跡

小坂西遺跡は篠山南麓の斜面にあり、小坂集落を横切るJR篠ノ井線付近が中心と推定される。今回の調査区域はもっとも山寄りで、標高450m前後の急傾斜地である。調査は9月18日から11月4日まで行われ、試掘トレンチを含めて約4,000㎡を調査した。

調査地は東西2地区である。ともに深い谷を見下す段丘面上にあり、中央に尾根がはりだし遺跡を東西に分断した形となっている。両地区とも縄文時代から中世にわたる住居跡14軒、土坑約140基などが検出された。住居跡は、縄文早・前期3、古墳2、奈良1、平安



第5号住居跡(平安時代)

2、中世5、不明1である。また、土坑は弥生土器を伴うものや中世の火葬墓もある。遺物は、押型文から水II式に至る縄文土器、特殊磨石、石鏃、スクレーパー、弥生土器、土師器、須恵器、内耳鍋、かわらけ、瀬戸焼、明青磁、銭貨などがあり断続的ながら長期間にわたっている。

次に注目されるものを紹介したい。平安時代の5号住居跡(写真)は縄文・古墳時代の住居跡を切り、斜面下側の南壁は検出されなかったが、1辺約5mと推定される。カマドは東壁にあり、斜面上側の北壁から西壁にかけて周溝がめぐり、これが南西隅から壁外へ、等高線に沿って長くのびている。おそらく雨水の流勢を弱めて排水する工夫とおもわれるが、他に例を知らず興味深い。中世の1・4・9号住居跡は、段切りした平坦面に柱穴を穿ち、やはり斜面上側に周溝をめぐらすものである。同じく7号住居跡は1辺約4mの方形竪穴状で、東・南壁は用地外となるが、四壁とも石をめぐらしていることが確認された。西壁では石垣状、北壁では壁から離して床面に大石を立て並べた状態で、遺構の性格はわからない。

立地条件から小規模な生活跡だろう、という当初の予想に反して、長期間に及ぶ集落跡が検出され、多様な成果とともに検討課題も多い。

長野市鶴萩七尋岩陰遺跡

つるはぎなひろいわかげ

鶴萩七尋岩陰遺跡は、その名前の示すとおり、篠山東斜面に突き出した巨大な岩の陰にある遺跡であり、北側斜面上に鶴前遺跡がある。標高380m前後、岩陰部分面積40㎡程のわずかな空間の岩のテラスを弥生時代には墓域として、古墳時代後期には墓域・祭祀の場として利用していたと考えられる。そして近世～近現代にかけては、石垣を組み平坦面を造成して薬師を祀り庶民信仰の場とされた。

弥生時代の遺構はピット1を検出した。ピット内からは、焼かれた人骨片複数個体分が出土した。同時に弥生時代中期前半と考えられる土器数個体と、副葬品と思われる太形蛤刃石斧、打製石鏃各1点が出土した。土器の中に納骨したものかどうかは不明であるが、一次葬を済ませた後で2次的にこの岩陰に集骨し葬ったと考えられる。

古墳時代の遺構はピット2つを検出した。上部が後世の攪乱をうけているために、ピット内と特定できる遺物は少ない。しかし提瓶(須恵器)・骨角製の鏃器の先端部分と焼けた人骨片がある。その他にいずれの



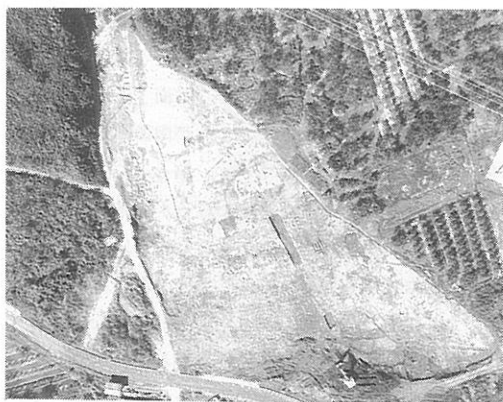
鶴萩七尋岩陰遺跡全景

ピットかは特定できていないが、土師器数個体・管玉(碧玉製2・グリーンタフ製6・滑石製3)・ガラス小玉1・骨角製鏃器数点(ほぼ完形2点を含む)・鉄鏃3点があり相応の身分の人を埋葬したと考えられる。また巨岩の上部テラスからは、土師器数個体と有孔滑石製品1点が出土しており、磐座の可能性もある。

今後は人骨の年代決定を含む詳細な性格づけを検討してゆきたい。

つるまえ 長野市鶴前遺跡

篠山々系の東側緩斜面上に広がる複合集落遺跡である。今年度の調査は、昨年度に継続したもので、市道長谷北線より山側、地籍では北白助にあたる所と昨年の残件として市道犬石湯之崎線直下が加わっている。面積は5,400㎡分で総面積は11,300㎡となった。



鶴前遺跡全景

長野市石川条里遺跡⑫・⑬・⑭・⑯地区

千曲川西側の後背湿地に立地する本遺跡の調査は、昨年度からの継続調査として行われた。昨年度の調査により、弥生時代から現代まで水田として永続的に営まれていたことが確認された。本年度の調査では、弥生時代後期、古墳時代前期、平安時代の各水田遺構が、全調査区において検出された。

本遺跡の特徴すべき点は、多量の遺物が水田遺構に伴うことであり、類例をみない木製品が数多く認められている。

弥生、古墳時代の水田面には、調査区域中央を東西方向に横断する溝が、継続して検出された。溝は巾約2.5m、深さ約0.8mを測る。溝内、土手等から、農具と建築材を主とする木製品が約200点出土している。農具は鍬・えぶり・田下駄・横槌等であるが、鍬は概して大形のもので多く、身部が約85cmに及ぶ三又状の鍬も見出されている。特殊な木器としては2枚の型取った板を枠で組み合わせた鳥形木製品(写真)、簪状に細工されたもの、大小の有頭棒と穴を数箇所にもつ赤彩の板等がある。

古墳時代の溝周辺からは、木器類の他に、完形もしくは半完形の土器が20数個体と櫛・土玉等が出土した。これらのことから溝の機能は、水田用水路以外にもあったことが推察される。

今回の調査では、前回の発掘調査で得られた資料を基に幾つかの課題を持って望むことが出来た。住居跡の総数は、11月現在で67軒。山側に平安時代の住居跡が、石川条里側(谷側)に弥生後期～古墳初頭の住居跡がまとまった状態で分布していることがわかってきた。また、本遺跡の南側は、谷地形を形成しており、北白助の山窪から流れ出る清水により形づくられた大きな沢の跡も確認された。ここからは、縄文中期～平安時代頃までの遺物が多量に出土しており、各時代に係る生活水として、また集落との繋がりが注目される。中世遺構としては、山削りを行ない整地した所に建築したと思われる建物跡や、室町時代の土坑墓が3基。この内1基からは、保存状態が良好な人骨が出土し、当時の山中浄土という風習を思わせる埋葬がなされていたことがわかるなど、この地の利用を考える上での新たな発見となった。このほか弘化2年に建築され、同4年の善光寺大地震により倒壊したといわれる屋敷跡については、今日の造園等による破壊で性格はつかめず、これに係る井戸のみの調査で終了した。

本年度調査で初めて弥生時代後期の畦畔が確認された。畦畔の方向は不規則であり、区画も規則性がみられなかった。比較的巾広い畦畔には、杭・横木・石等が利用されており、盛土の下から数片の土器と共に検出された。溝・畦畔に打ちこまれている杭は、数百本になると思われるが、いずれにも先端を削り出した加工痕をみることができる。

この他には、中世の溝址から呪符木簡が17点出土し、読解可能なものが6点あった。また弥生時代中期水田層からは磨製の石庖丁が3点出土している。

本遺跡出土の木器類は、県内では例をみない数量であり、十分な検討をしていく必要があろう。



鳥形木製品(古墳時代)

(財)長野県埋蔵文化財センター日記抄(9月~10月)

- 元.9.1 松原遺跡調査打ち合せ(公団・センター)、石川条里遺跡16地区調査開始(長)
- 2 戸田正勝(国学院栃木短大)・関谷晃氏来所・下茂内遺跡石器見学(佐)
- 4 村東山手遺跡調査開始(長) 平林調査研究員、石川条里遺跡調査応援開始(～11月15日)(松)、
- 5 応援調査につき長野調査事務所と打ち合せ(佐)
- 7 松本市立考古博物館神沢館長ほか1名来所、松原遺跡等視察、信毎・毎日取材(長)
- 8 角張淳一氏来所・下茂内遺跡石器見学(佐)
- 10 向六工遺跡現地説明会(参集名200名)、信毎取材(長)
- 11 鶴萩七尋岩陰遺跡調査開始(長)、岡村・百瀬・宇賀神調査研究員、川田条里遺跡調査応援開始(～11月30)(佐)
- 12 センター所長・部課長会議(長)、関プロ埋文行政担当者会議(於群馬、土屋調査研究員出席)
- 13 若穂工事区調整会議(公団・文化課・センター)、向六工遺跡本年度分調査終了(長)
- 14 文化課との打ち合せ、小坂西遺跡調査開始(長)
- 18 百瀬指導主事、小坂西遺跡本日から指導(～11月2日)、元興寺文化財研究所白沢勝彦氏来所(長)
- 19 朝日取材(長)、中央道長野線報告書7・8説明会(松)
- 20 台風22号で篠ノ井・石川条里遺跡水没(13,500㎡)以降10日間作業不可能、岡山県文化財センター正岡第3係長ほか2名来所(長)
- 21 長野市中学校社会教科会職員、松原遺跡見学(80名)(長)
- 22 篠ノ井商工会議所一行松原遺跡見学(10名)、川田条里遺跡調査打ち合せ(公団・センター)、県財政課・文化課、松原遺跡視察(長)
- 25 文化課との打ち合せ(長)、中央道長野線報告書7・8入札(松)
- 26 川田条里遺跡調査打ち合せ(公団・業者・センター)、須坂市公民館古文書を勉強する会、石川条里遺跡見学(30名)(長)
- 27 石川条里遺跡2-1地区調査終了(長)
- 29 日本列島展企画実行委員会(於東京、調査部長出席)、大室古墳群調査開始(明治大学)(長)
- 10.3 埋文センターのあり方につき文化課との話しあい、石川条里遺跡13地区調査終了(長)
- 4 センター事務局会議、川田条里遺跡調査打ち合せ(公団・川田土地改良区・センター)(長)、下茂内遺跡石器整理につきコンピューター導入(佐)
- 5 広島大学藤野次史氏来所・下茂内遺跡石器見学(佐)
- 6 長野市立塩崎小学校児童篠ノ井遺跡群見学(160名)(長)
- 7 石川条里遺跡2-2・3地区調査終了(長)
- 9 小滝遺跡調査開始(長)
- 12 事務局会議、更地地区高校教育文化会議社会科学分科会篠ノ井・石川条里遺跡見学(30名)(長)
- 13 信大医学部西沢寿晃氏松原遺跡等人骨につき現地指導、川中島有線放送鶴前遺跡取材(長)
- 14 榎田・川田条里遺跡写真等展示(長野市若穂支所新庁舎)(長)、研修旅行(美濃焼きを訪ねて)(松)
- 16 共同通信取材(長)
- 19 若穂農協高速道対策・地権者会・区長会議(所長ほか出席)(長)、新幹線・関越自動車地域内埋蔵文化財取り扱いの四県連絡会議(局長・畑所長ほか2名出席)(於浦和市)、全国埋文協同プロ会議(副理事長ほか2名出席)(於千葉市)、中央道長野線報告書7・8説明会(松)
- 21 研究会東日本の水田を考える会(於仙台市、河西・渡辺調査研究員出席)(長)
- 24 愛知県埋文センター石黒立人氏松原遺跡等視察(長)、沼津市教委関野哲夫・池谷信之氏来所・下茂内遺跡石器見学(佐)
- 26 榎原考古学研究所石野副所長松原遺跡等視察(長)
- 27 文化課との打ち合せ会議(長)、須坂高校教諭伊原今朝男氏古代集落の変遷について招へい指導(松)
- 30 森嶋県考古学会会長小坂西遺跡視察、長野市中学校教頭会篠ノ井遺跡群見学(20名)(長)

(8Pへつづく)

昭和 63 年 ～ 平成 元 年 度 市

No.	遺 跡 名	所 在 地	期 間	目 的 因	主体者	担 当 者
1	まわり場古墳	諏訪市四賀字桑原	元. 3. 3 } 元. 11	学 術 調 査	市教委	宮坂 光昭
2	清水氏居館跡	大町市大字常盤356ほか	元. 9. 18 } 元. 12. 4	ほ 場 整 備	市教委	篠原健一郎
3	大 垣 跡	上伊那郡箕輪町大字中箕輪3187-1	元. 4. 20 } 元. 5. 26	学 校 建 築	町教委	柴 登己夫
4	大 村	松本市大字浅間温泉307ほか	元. 5. 1 } 元. 9. 5	市 営 住 宅	市教委	直井 雅尚 三村 竜一
5	竜 神 平	塩尻市大字片丘10994番地	元. 4. 12 } 元. 5. 9	農 業 関 連	市教委	鳥羽 嘉彦
6	松本城 葵 の 場 跡	松本市丸の内13番26号～30号ほか	元. 5. 9 } 元. 6. 19	道 路	市教委	熊井 康治 木下 守
7	小 原	松本市大字芳川小屋	元. 5. 23 } 元. 7. 29	道 路	市教委	直井 雅尚 高桑 俊雄
8	峯 ・ 白 石	更埴市八幡字峯・白石	元. 5. 8 } 元. 6. 21	工 場	市教委	佐藤 信之 山根 洋子
9	聖 原 II	御代田町大字御代田字聖原	元. 7. 10 } 元. 7. 26	範 囲 確 認	町教委	提 隆
10	古 屋 敷	塩尻市大字片丘6303-4	元. 5. 17 } 元. 7. 23	ほ 場 整 備	市教委	鳥羽 嘉彦
11	古 町	大町市大字社5834-1 ほか	元. 10. 16 } 元. 12. 5	ほ 場 整 備	市教委	篠崎健一郎
12	石 上	松本市大字里山辺2629ほか	元. 9. 12 } 元. 12. 13	ほ 場 整 備	市教委	直井 雅尚
13	田 井 座	飯田市鼎一色	元. 8. 1 } 元. 11. 4	道 路	市教委	小林 正春
14	立 ケ 花	中野市大字立ケ花96-2	元. 6. 19 } 元. 7. 30	道 路	市教委	金井 汲次
15	松 ケ 崎	更埴市屋代字松ケ崎	元. 9. 30 } 元. 10. 31	道 路	市教委	山根 洋子
16	出 川	松本市大字出川町字町浦1841 ほか	元. 7. 24 } 元. 9. 28	土 地 区 画	市教委	熊谷 康治 新井 和孝
17	御小屋之久保	茅野市北山本道	元. 7. 4 } 元. 8. 12	分 布 調 査	市教委	小林 深志
18	丸 谷 地	上水内郡信濃町大字穂波字丸谷地	元. 7. 11 } 元. 11. 30	道 路	町教委	中村 由克
19	一 本 樫	茅野市塚原1-4204-1	元. 9. 1 } 元. 10. 4	宅 地	市教委	小林 深志
20	大 道 下	上水内郡信濃町大字穂波字大道下	元. 9. 13 } 元. 11. 30	道 路	町教委	中村 由克
21	栗佐遺跡群 北 村	更埴市大字屋代1881	元. 8. 17 } 元. 9. 16	道 路	市教委	佐藤 信之
22	なごくました 名 古 熊 下	飯田市鼎名古熊	元. 8. 1 } 元. 11. 4	道 路	市教委	小林 正春
23	いっしき 一 色	飯田市鼎一色名古熊	元. 8. 1 } 元. 11. 4	道 路	市教委	小林 正春
24	県 町	松本市県2-1-1	元. 9. 12 } 元. 9. 25	高 校 倉 庫	市教委	熊谷 康治 三村 竜一
25	藤 内	富士見町落合藤内、境字新道	63. 11. 15 } 元. 5. 13	道 路	町教委	小林 公明
26	渡 場	下伊那郡上郷町別府493-4ほか	元. 10. 16 } 元. 11. 15	道 路	町教委	山下 誠一
27	千 苺	飯山市大字端穂155-2	元. 7. 24 } 元. 7. 31	個 人 住 宅	市教委	望月 静雄

町村別発掘調査一覧 (その2)

時代	調査の概要		要見
	主な遺構	主な遺物	
古墳		刀装具1、鉄鍬片1、古銭1、骨片、須恵・土師器片	
縄文、中世近世	住居9、掘立柱建物10、土坑30、火葬墓1、柱穴多	縄文土器片10、石器5、陶磁器片5箱、古銭80 他	
縄文	土坑31	土器片10箱、石器1箱	
奈良、平安	住居25、土坑・ピット70溝10	土師・須恵器、灰釉・緑釉陶器、石器、獣骨、瓦	
縄文	住居3、集石炉13、小竪穴31	土器、石鍬、打斧、玦状耳飾	
江戸中期	木管、木樋、水道施設	古銭、鉄製品、土鍾、陶磁器、木製品、瓦	
奈良、平安中世	住居6、土坑53、ピット170	土師・須恵器、円面硯、墨書土器	
古墳～中世	住居2、土坑2、柱穴200	土器片8箱、木製品、金属器	峯遺跡は古墳集落跡、白石遺跡遺構なし
〃	住居6、掘立柱建物		
縄文	住居5、小竪穴180	縄文前期土器片、石器	
弥生～近世	住居6、掘立柱建物5、製鉄跡1、配石1、他	弥生土器など50、古銭8	
縄文、古墳平安、中世	住居39、古墳周溝1、土坑98、火葬墓3	土器8箱、石器、鉄製品100	墓坑3.7×2.0m、深さ1m
弥生、中世	住居6(弥生5)、掘立柱建物5 ほか	弥生土器・石器5箱、中世陶器1箱他	縄文早期末、弥生後期及び中世の3時期が中心
縄文、古墳平安	住居1、土坑1	土器・石器片	
奈良～中世	住居38、水田跡1、溝19	土師・須恵器片	
弥生、古墳中世	住居2、ピット623、火葬墓4、溝5	弥生・古墳土器、土鍾、灰釉・中世陶器、人骨	地鎮祭祀跡か
先土器、縄文	小竪穴	ナイフ形石器、エンドスクレーパー、剥片	
平安	住居1、掘立柱建物1	土器片・鉄製品1,000	鍛冶跡あり
縄文、弥生中世、近世	住居3、掘立柱建物2	土器片5箱、石器類20	弥生時代集落跡
縄文	礫群(早期)	押型文土器、石鍬、凹石、石斧など1,300	山形・隋円押型文土器
古墳	住居4	土器片4箱、馬骨5箱	
中世	掘立柱建物1、溝1	近世近代陶磁器1箱	
弥生	住居2、溝11	弥生土器・石器2箱、近世・近代陶磁器2箱	
平安	住居2、ピット1	土師器、須恵器、灰釉陶器、石器	
縄文	住居9、墓坑15	縄文土器・石器20箱	曾利1期住居内に墓坑あり
奈良、平安近世	溝1	須恵器、灰釉陶器、近世・近代陶器片	調査面積小
先土器、縄文平安	平安土坑	先土器・石器5、平安土器	畑作のため包含層まで破壊

(財)長野県埋蔵文化財センター日記抄(11月～12月)

元.11.2 鶴萩七尋岩陰遺跡調査終了(長)

- 4 大室古墳群調査につき明大小林教授と打ち合せ(明大・文化課・センター)(長)
- 6 古越教育次長川田条里遺跡等視察(長)
- 8 センター調査部課長会議
- 9 三重大学八賀晋教授、川田・石川条里遺跡現地指導(長)、佐久インター以北300m設計協議・調印(佐)
- 13 小滝遺跡調査打ち合せ(公団・業者・センター)(長)
- 14 静岡県埋蔵文化財研究所平野吾郎・山田成洋氏来所・川田条里遺跡等視察、読売・川中島有線取材(長)、信州大学人文学部学芸員講座受講学生施設見学に来所(佐)
- 15 読売取材(長)
- 16 石川条里遺跡16地区調査終了、信毎取材(長)、独協医大茂原氏北村人骨保存について招へい指導(松)
- 17 長野県農業試験所古川部長ほか2名・梅村弘氏石川条里遺跡現地指導、小坂西遺跡調査終了(長)
- 18 センター構想係会議(3所)(長)
- 20 小滝遺跡調査打ち合せ(公団・業者・センター)(長)
- 21 川田条里遺跡調査打ち合せ(公団・業者・センター)(長)、中央道長野線報告書6・9説明会(松)
- 22 埋文調整会議(高速道局・長野高速道・公団・県教委・センター)、長野ろう学校生徒 篠ノ井遺跡群見学(6名)、朝日取材(長)
- 25 川田条里・榎田遺跡展示速報展(～26日、於若穂農協)(長)
- 26 川田条里遺跡現地説明会(参集者300名)、NHK・TSB・SBC・朝日・信毎・読売・若穂有線取材(長)
- 27 中央道長野線報告書6・9入札(松)
- 28 篠ノ井遺跡群調査打ち合せ(公団・センター)(長)、滋賀大学小笠原教授古代集落の変遷について招へい指導(～10日)(松)
- 29 若穂工事区調査打ち合せ(公団・文化課・センター)、松代新聞取材(長)
- 30 川田条里遺跡調査打ち合せ(長野電鉄・文化課・センター)、長野南農協両組織常任委員

会(所長ほか2名出席)(長)

- 12.1 篠ノ井遺跡群調査打ち合せ会議(高速道局・長野高速道・公団・文化課・センター)、松原遺跡調査打ち合せ(公団・文化課・センター)、奈文研宮本長二郎室長川田条里・松原遺跡視察(長)
- 4 若穂工事区調査打ち合せ(公団・文化課・センター)
- 5 センター事務局会議、文化庁河原主任文化財調査官松原遺跡等視察(長)
- 7 文化課と来年度調査等につき打ち合せ会議、神沢松本市立考古博物館長ほか1名来所(長)
- 8 文化課との打ち合せ(長)
- 9 長野県教文会議社会科学研究会松原遺跡見学(30名)(長)
- 10 松代地区現地説明会(参集者、大室古墳群・村東山手60名、小滝70名、松原110名)、坪井清足大阪文化財センター理事長松原遺跡現地指導、信毎・毎日・松代新聞取材(長)
- 11 森嶋・神村両理事、篠ノ井遺跡群等視察・指導(長)
- 12 松原遺跡調査打ち合せ(文化課・センター・公団)(長)
- 13 長野市埋文センター所長来所、青森県埋文センター遠藤正夫・山口義伸氏川田条里遺跡等視察(長)
- 15 松原遺跡調査打ち合せ会議(高速道局・文化課・センター)、文化課地ノ目・一丁田遺跡試掘(第2次)立ちあい(長)
- 18 中央道長野線報告書4説明会(松)
- 20 埋文調整会議(高速道局・長野高速道・公団・文化課・センター)(長)、明治大学戸沢充則教授北村人骨保存等について招へい指導(松)
- 21 松代小学校6年児童松原遺跡見学(40名)、更埴市「長の字会」篠ノ井遺跡群視察(15名)(長)
- 22 鶴前・石川条里15地区・川田条里A地区本年度分調査終了、長野県遺跡調査指導委員会(於長野市)、田中琢委員長一行川田条里・松原遺跡視察・指導、松代小学校4年児童松原遺跡見学(40名)(長)
- 25 村東山手遺跡本年度分調査終了、川田条里遺跡B2地区調査終了(長)、中央道長野線報告書4入札(松)